

## 大東亜戦争（日支戦争・対英米戦争の8年戦争）の真実

（第1回）共産主義こそ、「軍国主義」・「（スーパー）ファシズム」勢力である

---大東亜戦争の真実を理解するための「（共産主義）転倒語法」の基礎知識

◇ はじめに。

本論考は、大東亜戦争（日支戦争・対英米戦争の8年戦争）の真実すなわち、  
「なぜ日本は小さな盧溝橋事件を支那事変、日支戦争へと拡大したのか？」  
「なぜ日本は対英米戦争をせねばならなかったのか（する必要が本当にあった  
のか）？」

等について、中川八洋 筑波大学名誉教授の著作『近衛文麿とルーズヴェルト』PHP研究所、『亡国の「東アジア共同体」』北星社、『山本五十六の大罪』弓立社、『近衛文麿の戦争責任』PHP研究所 等々の中から、必要最低限の要点だけを絞り出し、すべての日本国民に理解できるように私〔=ブログ作成者〕が再構成したものである。

そのため本論考は、

共産主義近衛文麿内閣（日本共産政権：3期）が推進した、

① 「東亜新秩序」声明---日支戦争開始・継続・拡大の“共産主義戦争”ドクト

リン

【関連】尾崎秀実その他の共産（社会）主義者の「アジア協同体」論

② 「大東亜共栄圏」---“日本軍の南進 + 対英米戦争”への国民煽動ドクトリン

かつ“東アジア全域の共産化”ドクトリン

③ 対英米戦争の終戦工作---近衛文麿の「ソ連仲介案」の恐るべき売国内容

の3点を柱にして「大東亜戦争は誰が、何の目的で推進したのか？」を明らかにすることを目的としている。

なお、本論考は「必要最低限の要点を絞り出す」ものとはいえ、“歴史の真実”を明らかにするためには、一定程度以上の紙幅を必要とする。

このため、本論考は今後、数回程度に分割して掲載するものとする。

各回の掲載時期については未定であるが、できるだけ連続的に掲載できるように努めるつもりである。

第一回目は、上記の表題にあるとおり、読者の皆様が第二回以降の本編論考を読みやすいように、「(共産主義) 転倒語法 (=嘘)」の基礎知識を簡潔にまとめたものである。

それでは、「ノンフィクションの物語」を始めましょう！

**(1) ソ連共産党、世界各国の共産党の嘘宣伝 (謀略宣伝) 手法を知るべし！**

ソ連 (ロシア) 共産党及び各国共産党の謀略宣伝手段の基礎は、

「国際緊張=戦争の危機」を感じさせた上で「**米国=戦争勢力**」であり、「**ソ連=平和勢力**」である、従って「**反米・親ソ=平和主義**」である、という三段論法にあるが、これは**全くの嘘・出鱈目**であるから決して騙されてはいけない。

## (2) **共産（社会）主義者の「嘘の論理」**

① **共産主義者**にとっては、資本主義、帝国主義、植民地主義を完全に打倒した後、初めて《**世界平和（=世界共産化）**》が実現するから、そのための《**基地がソ連（ロシア）**》である。

② すなわち、**ソ連（ロシア）**を全世界へ**拡大・拡張**して《**世界ソヴィエト共和国連邦**》をつくる手段は何であれ、**共産主義者**にとっては、すべて《**平和運動**》と嘘宣伝される。

③ ロシア語「ミール」の意味は「世界・平和」であるが、①②の**共産主義イデオロギー**を介して《**共産主義用語**》としての《**戦争=世界・平和**》と**変質（転倒）**される。

**レーニン**の有名な発言《**戦争（=ソ連拡張ならば）とは平和である**》の意味はこうして成立する。

言い換えれば、**共産主義者**にとっては《**ソ連（ロシア）の軍力**による世

界支配（侵略）は、常に世界平和である」という詭弁として正当化されるのである。

このような共産（社会）主義者の転倒語法をニュー・スピークスと言う。

④ 共産（社会）主義の「祖国」「総本山」はソ連（ロシア）であるから世界各国の共産党の至上命題（命令）は「祖国」「総本山」の防衛・破壊阻止である。

⑤ 1950年3月にソ連共産党のフロント組織である「世界平和評議会」が原爆の禁止を求めるストックホルム・アピールを発表したが、ソ連自身は核戦力を強めることを一切やめず、原爆禁止運動は米国核のみに反対するものであった。

そして「ソ連の核は《平和》のためにある」（＝ソ連の核は《ソ連拡張・世界共産化》のためにある）という主張をしたのであり、ソ連の《平和》とは「核戦力（軍事力）による世界支配（＝共産化）」の意味であるから、自由主義国家の“正しい観念”で考えれば、世界共産化が達成されるまで、拡張主義のソ連（ロシア）こそが、常に「軍国主義国家」であり「ファシズム国家」であり続けるのである。

例えば、転倒語法（思考）には次のようなものがある。

・ 共産主義の用語《民主化》→自由主義の普遍的概念「共産化」

・ 共産主義の用語《軍国主義》《ファシズム》→自由主義の普遍的概念「ソ連（ロシア）による世界共産化を、外交的・軍事的に阻止する自由主義（勢力）」

・ 共産主義の用語《民族解放（戦線）》→自由主義の普遍的概念「世界各国の諸民族に暴力革命を起こさせ、共産国家化させること」

⑥ 共産主義の②の目的（=全世界共産化がなるまでは《平和》は達成され

ない）が存在する限り、東西間の平和的共存など、そもそもあり得ない。

だから、冷戦時におけるソ連（ロシア）の《デタント》、《緊張緩和》もソ連側の戦略に役立つ《平和共存》（=自国の形勢不利に伴う一時的退却）の意味しかなかった。

**(3) 「《全世界が共産化》すれば、《平和》が訪れる」というマルクス主義や共産主義の理念は、根拠など皆無であり、妄想にすぎない。**

例えば、レーニンは「歴史は今日われわれに（すなわちロシアのマルクス主義者に---スターリン注）直接の使命を課したが、この使命たるや、いかなる国のプロレタリアの当面の使命よりも最も革命的な使命である。この使命を実現し、ヨーロッパのみならずアジアの反動の支柱を打破すれば、ロシアのプロレタリアは国際プロレタリアの前衛となるであろう」（スターリン『レーニン主義の基礎』）と言った。

が、これには何の根拠もなく、このような言説はロシア民族土着のロシア救世主思想に発する「ロシアのプロレタリア王権神授説」にすぎない（＝中世神権政治、旧体制への破壊的「反動」にすぎない）。

また、スターリンも「レーニン主義が一つの国際的現象であって国際的發展に根をもっており、単にロシア的現象ではないことを知っている」（スターリン『レーニン主義の基礎』）と言っただけで「知っている」根拠は何も述べていない。

なお、実際には、ソ連共産主義とは、赤い貴族による世界史上最悪の専制政治であり、赤い貴族＝ロシア共産党員とは、資本主義のブルジョワジーなど遙かに超越する「利己主義的な守銭奴階級」であったことは、世界中で認知された歴史事実である。

#### (4) ソ連共産党が世界各国の共産党・共産主義者に発した命令

##### ■ 1928年コミンテルン第六回世界大会

「帝国主義戦争の危険に対する闘争手段に関するテーゼ」

(i) 帝国主義戦争（＝ソ連に対して行われる戦争、共産主義の世界への拡張の障害となる戦争）は、主要な帝国主義諸国におけるブルジョアの覆滅（＝共産革命）によってのみ阻止できる。

(ii) 帝国主義諸国間の戦争(=例えば、日本の対英米戦争など)の場合、「**自分の国家に対する敗北主義と戦争の内乱への転化**」を図れ(=敗戦革命論)。

(iii) **プロレタリア国家**が帝国主義に対して行う戦争(=ソ連をはじめ共産主義国が進んで行う《**解放**》戦争)の場合、プロレタリアは自分の**社会主義的祖国ソ連を擁護**すべき。

(=ソ連が日本への《**解放戦争**》を行う場合には、日本の**共産主義者は反戦運動**を行い、**ソ連軍を有利にするよう協力**すべきである。)

例えば、レーガン米国政権が核を含む軍拡によって力のバランスを有利にしようとすると、**ソ連共産党**は《**帝国主義戦争の危機**が迫った》と主張した。

つまり**ソ連共産党**は日本の労働組合が「**社会主義の祖国防衛**」のために《**反戦(反核、平和、反米)運動**》を展開することを**期待**し、それを**支援**した(=《**連帯**》した)のである。

#### ■ 1920年コミンテルン第二回大会

「共産党と議会主義に関する決議」

「議会闘争への参加について、それがブルジョア国家機関であるからとの反対理由を掲げることは断じて不可である。

**共産党**が右機関に参加するのは、そこで**有機的な活動を行うためではなく**、**議会の内部から**大衆に対し**決起**によってブルジョア的**国家機関を覆滅**し、かつ

議会そのものを内部から転覆させるよう援助を与えるためである。」

すなわち、ソ連共産党や配下の各国共産党にとって《議会政治》への参加とは、大衆を決起させ、政府・議会を転覆・覆滅させることの援助にあるという意味である。

なお、1932年の「コミンテルン 32年テーゼ」については、第二回以降の本編で触れる。

#### (5) ソ連共産党（スターリン）にとっての、日ソ中立条約（1941年4月）

##### 締結の意義と条約破棄（1945年8月）の理由について

#### ■ 日ソ中立条約締結のソ連の目的

【1928年コミンテルンの綱領「国際プロレタリアの義務」】

「ソ連を唯一の祖国、征服のための重要拠点、国際的解放の最重要因子とみなしている（＝みなすべき）国際プロレタリアは、ソ連における社会主義建設の成功に寄与し、あらゆる手段を尽くして資本主義列強の攻撃からソ連を防衛する義務を負う。

帝国主義諸国がソ連を攻撃し、戦争が勃発した場合、国際プロレタリアはプロレタリア独裁およびソ連との同盟をスローガンとして最も果敢かつ決定的な大衆行動と帝国主義打倒のための闘争によって答えるべきである」

## ■ 日ソ中立条約破棄のソ連の理由

ソ連は、ドイツがソ連を攻撃してくる場合に**日本の手を縛り**、また日本国民に**ソ連の脅威を忘れさせるための謀略手段**として、《**日ソ中立条約**》を締結したのであった。

が、**日本が敗戦の瀬戸際**に陥った段階でも中立条約を遵守するのでは、「**(世界共産) 革命の基地**」の**拡大のチャンス**を逸することになる。

そのような情勢のもとでは、**ソ連共産党**にとって**中立条約**はもはや《**平和 (= ソ連の拡張)**》のための**役割を終え**、**無視**しても《**ソ連にとって**》**違反**ではない、というより《**無視することが、平和である**》という**共産主義の転倒論理**で、条約を**平然と破棄**したのである。

(参考文献：曾野明『ソビエトウォッチング 40 年---あたまを狙われる日本人』)

大東亜戦争（日支戦争・対英米戦争の 8 年戦争）の真実 第一回（完）

平成 26 年 1 月 19 日 バークを信奉する保守主義者



(第二回へ続く)